東京発祥

第一回 もんじゃ

これから毎回、東京発祥のものについて連載していきたいと思っています。まず第一回目は「もんじゃ焼」について。しかし、記念すべき第一回目なのですが、「もんじゃ」が東京発祥のものであるという確証はありません。しかし、東京名物で、下町住民に親しまれている食べ物なので取り上げてみたいと思います。

もんじゃのルーツは麩の焼きであると言われますが確証はありません。麩の焼きは千利休の茶会でふるまわれた懐石料理の中にあった菓子で、うどん粉を酒と水で練り、煎り鍋に薄く延ばして焼く。固まるときに山椒入りの甘味噌を塗って巻き込み、それを切ったものであると言われています。お好み焼きのルーツも麩の焼きという説があるので、もんじゃとお好み焼きは同祖になるのでしょうか?

麩の焼きをリバイバルしたのが江戸麹町三丁目橘屋の助惣焼で味噌の代わりに餡を巻いたものでありました。この人気のあった菓子がどのようにもんじゃに派生していったかは曖昧なのですが、1819年刊行の「北斎漫画」に「文字焼き屋」の挿絵があり、タネで「いろは」の文字を書いて焼いたので、文字焼きが、もんじ焼き、もんじゃ焼となったとも言われています。江戸末期にはもんじゃのルーツと言える食べ物があったと推測されます。

明治に入ると下町の駄菓子屋で食べられるようになっていきました。元々は子供のおやつという位置付けでしたが、戦後を過ぎ、近年では大人がお酒を飲みながら食べると言う形態に変わっていきます。もんじゃ屋は東京都全域にありますが、一般的に日常で食べられているのは台東区、荒川区、江東区、墨田区、中央区、足立区、北区などの下町で、その他の地域は歴史も浅く、日常的に食べられてはいません。上記の地域では駄菓子屋やもんじゃ屋だけでなく家庭でも食べられます。

月島がもんじゃの発祥地と誤認されている例がありますが、月島は町おこしでもんじゃストリートが成功し、観光客が集まっただけで元祖ではないのです。駄菓子屋として創業した一番の老舗が「近どう」で昭和25年。もんじゃ専門店としては昭和29年創業の「好美家」で、その他、老舗と言われる店は昭和30年代。ほとんどの店はもんじゃストリートが流行ってからの転業です。

浅草、町屋、千住、深川、向島などにも古い店が多いです。群馬にももんじゃ焼があり、群馬では群馬が元祖と言う説があります。東武伊勢崎線沿線にはもんじゃ焼や、行田のフライやゼリーフライなどの独自の粉食文化があります。足立方面ではぼった焼きと呼ぶ。明治以降の物流の大動脈となった東武伊勢崎線沿線や隅田川を通って広まっていったと思われます。また、もんじゃから派生した「どんどん焼」があるが、ほとんど見かけなくなりました。

もんじゃのルーツははっきりしない部分が多いのですが、東京下町で愛されている食べ物ですから、東京発祥の食べ物として認知したいと思います。

お江戸あれこれ

"麻布さん"には、ご用心!

江戸五色と言えば、赤、青、白、黒、黄色の五色である。

目の色がこの五色に因んだ不動尊があり、誰もがイメージし易いのは目黒不動尊(瀧泉寺・目黒区下目黒)だが、目赤不動は、文京区本駒込の南谷寺に、目青不動は、世田谷区太子堂の教学院に、目白不動は、豊島区高田の金乗院に、目黄不動は、台東区三ノ輪の永久寺と江戸川区平井の最勝寺に、今も実在する。(暇を見つけて、五色不動巡りをするのも、興かも…。)

不動尊とは別に、この五つの色に因んで"麻布さん"に繋がる話がある。

江戸の地名に、赤坂、青山、目黒、芝白金の四色は見つかるが、黄色はどこにもない。この四つの色に囲まれたエリアに、麻布がある。

江戸時代の麻布は武家屋敷が多く、周囲に住む町民は高い塀に囲まれ暮らす武士の考えている事や、気持ち推し量ることが出来ないため、容易に気持ちを許せないと思っていた。

江戸に黄色が付く地名がなく、武士に気持ちを許せない事から、黄色がない→気(黄)が置けないを考え併せて、気心を許す事が出来ない人の事を、"麻布さん"と呼ぶようになった。

しかし現在では、「気の置けない仲」と言えば、とても仲の良い関係を指すよう、江戸時代とは真逆の意味を持つようになってしまった。

つまり言葉は生き物で、意味は永久不変ではなく、このように時代によって意味が変わったり、わずか数年で"死語"になって使われなくなったりするものと理解すると良いようだ。

東西南北の読み方、いろいろ

例えば、東風は「こち吹かば　匂い起こせよ梅の花」の句にあるように、「こち」と読み、南風と書くと沖縄県人の名前に多い「はえ」となる。

では、東南と書いて「とうなん」と読まない場合、なんと読むかご存知ですか:。答えは、「たつみ」。

十二支を磁石に当てはめた場合、真上の北は子(ね)になり、右回りで丑・寅・卯・辰・巳・:となる。つまり、辰巳の方角は東南に当たるので、東南と書いてたつみと読むわけである。

これを地名に当てはめる場合もあり、浅草寺を背に門前に続く仲見世を歩き、交差する新仲見世を左折して、マクドナルドの手前を左折すると、すぐの左手に「東南屋」(たつみや)という和食の店(浅草1-33-5)がある。

また、門前仲町にある深川不動尊を背にした右手には、辰巳新地があり、かつては三業地として賑わった盛り場で、こちらは江戸城から見て東南の方角に当たるので、この地名が付いたわけである。

深川芸者は吉原の廓芸者に対して、町芸者では随一のものとされていた。「辰巳芸者」とも異名したのは、深川が江戸城から見て辰巳の方角に当たるからだった。

町芸者だけに廓芸者よりも自由奔放で大衆的だったが、江戸前の意地や気っ風を身上として、朝湯に入る特権と、足袋を履けるのが、辰巳芸者の誇りだった。

協賛企業募集中
詳しくはホームページをご覧下さい
協賛
有限会社 花心(はなこころ)
〒152-0022
東京都目黒区柿の木坂1-22-10
TEL:03-3717-6137
EMAIL
info@hanakokoro.com

東京ナレッジ作成協力のお願い

東京再発見では東京を知り尽くすためのサイト「東京ナレッジ」を作成しようと思っております。東京の川や橋や坂、歴史的建造物など様々なものを網羅し、デジタル化して保存し次世代に語り継ぐ。集めたデータをウェブ上に公表したり、出版をしたいと思っております。

高低差マニア、坂マニア、橋好きや川を眺めるのが好き、その他、知識は無くても川や坂が好きな人、東京の様々なことを記録に残すことの趣旨に賛同してくれる方などおりましたらお手伝い願えませんでしょうか?

みんなと一緒に歩いて川や橋などの写真を撮影したり、由来を調べたり、無くなってしまった川の流路を調べたり。そんな事を記録に残していきませんか?

冬青木坂
もちのきざかと読みます

集合場所から見た
外堀が暗渠になっていく過程

二合半坂
由来は日光山が半分見えるためとか?なぜ「日光山が半分見える」と『二合半』になるのでしょう。富士山は麓から頂上までを十分割して一合・二　合…と数えますが、西側に見える富士山と比べると日光山はその半分の高さ(五合)に見え、その日光山がこの坂からは半分しか見えないので五合の半分で　二合半になるという考えです

一口坂
今では「ひとくちざか」と読んでいますが、元々は「いもあらいざか」でした。多くの人達がいもあらいと読めずにひとくちと呼んでいるうちにひとくちざかになってしまったものです
これと似たものに万世橋があります。こちらは本来の読み方はよろずよばし

幽霊坂3つ
江戸には幾つもの幽霊坂がありました。人気の少ない寂しい道をこう読んだのでしょう。
富士見には幽霊坂と推定される3つの坂があります
見覚えある坂はありますか?

東京ナレッジ
東京の坂道グループ報告

9月23日(祝日)　坂道散歩　九段麹町編

東京は坂道の多い街であります。坂を隔てて街の様子が一変することもあり、佐の上と下から見る街の風景も全く違うものであったり興味が尽きません。

前回の坂道散歩では千代田区東部の神田方面の坂道を訪れました。今回は九段、麹町方面の千代田区西部の坂を訪れました。

イベント予定

10月23日(土)
横浜開港中心の地と山下町、中華街
9時30分集合
今回は日本大通り辺りの素晴らしい建築や発祥の地巡り、大桟橋から横浜港の景色を眺め、横浜開港の歴史に迫りながら足を延ばして山下町や中華街の昼ご飯も散策してみようかと思っています。散歩するだけではなく、様々な歴史に触れてみましょう。

11月14日(日)
野川中流編　多摩の見どころ再訪
9時30分集合
昨年は源流から中流域まで野川を歩きました。国分寺崖線に沿って流れ湧水の多い野川に沿って歩き、以前に訪れた都立野川公園、国立天文台、調布飛行場、近藤勇の墓、深大寺蕎麦も食べられるかな?

11月27日(土)
中央線カルチャー　中野を歩く
9時30分集合
案内人はのさりようコンビです。
中央線沿線には中野、高円寺、阿佐ケ谷、荻窪、吉祥寺…と個性ある街が並び独自の中央線カルチャーを育んでいます。その一端に触れようと思い、中央線の街を訪ねてみたいと考えています。まず最初は「中野」です。

12月5日(日)
神宮外苑の紅葉と表参道散歩
東京再発見10周年記念&忘年会
9時集合
イチョウ並木が黄色に染まって絶景を織りなす神宮外苑を歩いて晩秋を感じながら、オシャレな場所で知られる表参道を散歩します。表参道や青山界隈を散歩したことが無い方、普段、なかなか行く機会の無い方はこれを機にこの付近を歩いてみませんか?
外苑前周辺、246、表参道あたりを歩きます
東京再発見は今年の9月をもちまして10周年を迎えました。忘年会と併せて青山界隈で飲みたいと思っています。是非ご参加下さい。初参加の方も歓迎です。

その他新企画もどんどん発表していきます。
お楽しみに!

イベント詳細はこちらもご覧ください　**http://tokyosaihakken.sakura.ne.jp**　参加費500円　途中合流、途中抜けOK

東京再発見MIXI版　http://mixi.jp/view_community.pl?id=187960